玉野市立学校適正規模・適正配置検討委員会 第６回会議　会議録（要約）

■日　時　令和５年７月 10 日（月）15：00～17：00
■場　所　学校給食センター
■出席者　〇委員 15 人
金川 舞貴子委員長　栗林 太一郎副委員長
中島 正人委員　木津 直美委員　森 幸絵委員　大内 雄一郎委員　西宇可奈子委員
兼松 勲委員　今井 克則委員　木村 俊一委員　諏訪 祐子委員　濱松 正江委員
三浦 康男委員　浅浪 康延委員　近藤 奈々委員
〇事務局４人
玉野市教育委員会教育長 多田 一也　教育次長 小﨑 隆　教育総務課長 琵琶 学
教育総務課課長補佐 清山 智保
〇教育委員（オブザーバー）３人
教育長職務代理者 三宅 英次　委員 太宰 実千代　委員 横山 純子
■傍聴者　17 人（うち議員８人、報道関係者２人）

１　開会
事務局：　要綱第６条第２項により、委員の半数以上が出席しているので、会議として成立することを報告する。

２　議事（要綱第６条第１項に基づき、金川委員長が議長となる。）

（１）第４回会議録の確認について
委員長：　今回の会議についても公開とするが、よいか。（委員了承）
事務局：　議事録は事前に内容を確認いただいている。改めてお気づきの点があればご指摘いただきたい。（特になし）

（２）中学校適正規模化の具体的な方策について
委員長：　今回はグループワークをベースに、かなり具体的な検討を行う。それぞれの地元の事情等を踏まえて活発なご意見ご議論をお願いする。現時点の確認であるが、第３回の資料『答申の構成案』と『今後の議論の進め方案』という資料でどのあたりを議論しているのかというところ、あるいは答申の全体イメージを踏まえて、ご議論を進めてもらえるとありがたい。
複式を解消して教育的な効果がある規模を考えてほしいという諮問に対して、議論を進めてきたが最終的な答申の構成イメージとして、今玉野の学校がどういう状況なのか、それに対して目指す教育を考えたときにどういう規模の学校が望ましいのかという基本的な考え方を、小学校中学校で少し事情が違うから丁寧にしていこうということで議論をしてきた。その規模、配置の適正化を図るためには、具体的にどんな方策が考えられるのかというところで今議論を進めている。スケジュール的には丁寧な議論をした結果少し遅

れているが、いろんなご意見があるということで結論ありきではなくて丁寧に議論を積み重ねている一つの結果と思ってご容赦いただきたい。
今まで、目指す教育について、アンケートの分析、アンケートの結果で全体、保護者、職員、地域の方がどんなふうに考えているのか、そして当事者の子どもがどう思っているのかを把握してきた。
中学校であれば、クラス替えができるというところを目途に、専門性を持った先生から丁寧な指導を受けられるという学習保障という点から、１学年３クラス以上が望ましいということで落ち着いたと思っている。
小学校に関しては、これも同じく、これから望まれる学びを実現していこうと思うと、一定規模の人数が必要である。複式はやはり解消することが望ましく、クラス替えを前提に１学年２クラス以上は望ましい規模というところで、議論が落ち着いたと思うが、よいか。

委員１：　前回の会議の最後のあたり、小学校の規模が決まったのか決まってないのかと認識している。私の意見としては、小学校の規模も１学年３クラスぐらいがいいと考えるようになった、という発言をしたが、実際の玉野市の適正な規模ということを考えていくと、２クラス以上ぐらいからまずはスタートして、２クラス以上３クラスになるかどうかはわからないが、その先の将来が３クラスになることもあるかもしれないということを意見とする。

委員長：　２クラスか３クラスというところが少し曖昧だったところに対しては、２クラスをベースに、将来的には３クラスもありうるかもしれない。小学校の場合、３クラスでないといけないという合理的な根拠もないと思う。人数は法律で決まっているので、例えば７０人だと３５人、３５人だが、７１人になったら３クラスに分かれる。そうなるとどっちがいいかというのは難しい。
２クラスか２クラスをベースに３クラスもというあたりでよいか。

委員２：　私は、前回小学校のクラスの規模が決まったという認識がない。

委員長：　前回、私の采が少し甘かったが、大きな方針としてはクラス替えができるというところがありつつ、例えば大きな規模にはなじまない子もいるかもしれないし、小学校の多様性の確保というところから、小規模校の全部を小規模校のままで残すとなると、最初に事務局から説明があったように、コストの面でも現状維持で２．２倍以上お金がかかるということを考えると、より質の高い教育を保障しようと思ったら現状維持というのはないだろうというところがある。
少し規模の大きいところ、２クラス以上として、場合によっては小規模校が１校ぐらいだとしたらあり得るかもしれない。その可能性を検討していこうというところで、基本方針は複式を解消して、クラス替えが望ましいが、小規模学校の特例の可能性は検討していこうというところで落ち着いたと思っている。

委員２：　複式が悪いという根拠がないという話だったと思う。

委員長：　今回は中学校の配置、具体的な策を考えていきたい。小学校に関しては、次回に持っていきたい。複式は極力解消して、クラス替えというのは、望ましい教育のあり方をどう考えるかというところでかなり議論をしてきたところである。全てを変えるというわけではなく、小規模校の良さを残していく可

能性も考えていこうということだけ言葉を残したと思うが。

委員２：　根拠がないという話に落ち着いたと思う。エビデンスがないことをどうするかをみんなで考えていこうという話だった。

委員長：　エビデンスを議論するのが難しいというところに落ち着いたのではないかと思う。現状維持でやっているのではいいようにはなかなかならないだろうというところに落ち着いたと思う。

委員２：　小学校が大人数になったら、いい教育ができるという根拠が、前回なかった。

委員長：　小学校は、次回に持っていきたいが、大きな規模にはならないという現状もある。２校を１校にしても、単学級になっていくという現状がある。議論していると、大規模校になっていくようなイメージで語られるかもしれないが、大規模校にはならないという現状がある。その辺りの議論は小規模の可能性というところの意味も含めて、次回以降にしたい。

今回は、中学校の配置の具体のところで議論を進めさせてもらいたい。適正規模化の手段として、資料を準備してもらっている。時間も限られているのでまた目を通してもらいたいが、一般的に適正化の手段として３つが考えられる。１つは統合、そして通学区域、校区の変更、３つ目が学校選択制の部分的導入である。これは、例えば小規模特認校制度というようなものである。中学校の場合は、１学年３学級以上という規模を求めていきたいと本委員会で考えたので、校区を変更しても解決にはならない、統合という手段に絞られてくると思う。

そこで今回議論してもらいたいのが、中学校の適正規模化の具体的な方策について学校数をどうしていくか、そして配置をどこにするか、かなり踏み込んだ議論にはなってくるが、そのタイミングである。まずは学校の数、そして配置についてご議論をしてもらいたい。議論の中に通学手段のことも話してもらいたい。中学校は６キロとか１時間程度になっているが、あくまでも原則である。

（グループ討議）

グループ１：　（委員３）最終的には、草案のように宇野中と荘内中が残るとなると、人数的にも２校になってしまうという結論が出ている。もし案としていけるのであれば、Ｃ中、八浜・東児・山田ぐらいの学校が一つになって３校ぐらいになるというのがいいというのも出たが、どんどん少子化で人数が減っていくと、やはり最終的に２校になってしまう。その中で出た話で日比中学校の校舎がわりと新しい、荘内中がちょっと古いので、荘内と宇野に中学校が２つぐらい分かれたときに、新しい日比中に行くとしたら、ちょっと南の方になるが、学校が新しく建てれないのであれば、もうそれぐらいしかないという結論が出た。少人数クラスにしか馴染めない子に対してその学校内で、配慮できるような少人数のクラスを作ってはどうかという意見も出た。

個人的にはＡ中、Ｂ中、Ｃ中ぐらいで、Ｃ中は八浜・東児・山田ぐらいのところをまとめて、３クラスにはならないとは思うが、１学年１クラスぐらいの学校を中学校でも残すという観点から、Ｃ 中があってほしいという希望はある。

グループ２：　（委員１）適正な規模の中学校１学年３クラスの学校が、最初校舎も立てて、今の既存の校舎を使いながらやっていくということが前提であるとすれば、いきなり２校にするのは直ぐには難しいだろう。

そうなると、適正規模が２つ、小規模の中学校を１つの３つからスタートする。現実的に、山田中学校のように小規模の中学校を残したとしても、そこを選択せずに、大きな適正規模の方に行きたいという人ばかりではなくて、生徒は残っているが、生徒が少なくなる可能性も十分考えられる。将来的には段階を経て、東西の中学校２つというところに行き着くと考えている。荘内それから宇野を拠点で、東は東児ありきとは考えていない。山田がいいのかもしれない。山田の方に一部、八浜から通ってもらう。学区をどう考えるかだが、東児からも通ってもらう。それもあるかもしれない。

スクールバスの導入というのは当然出てくるし、配置を変えたときに、学校名というのも最初から変えないとうまく皆が納得の上でそういう方向にいかないだろう。それを第一段階として、最終的には、おそらく東西の拠点、それは荘内と宇野を東西にするのではなくて、違う場所に東の中学校と西の中学校。西側は、一つは日比中のところに校舎を増設して、そこにするとか。東の方はどこがいいのかわからないが、山田中学校跡地に海の見える中学校、玉野市に一校ぐらいあってもいいのではないか。そういうことも将来また考えてもらってもいいのではないかと思っている。

グループ１：　（委員３）例えば、宇野中学校を使うのではなくて、例えば、田井小学校を中学校として使うとか、小学校、中学校というのを考えずに使える校舎を積極的にいい位置の学校を使っていくという意見も出たので、補足する。

グループ３：　（委員４）まず宇野中あたりを中心とした中学校を１つ。その中学校に通える範囲の小学校もいずれは１、２クラス、できれば２クラスを保って、小学校を作っていきたい。中学校が３、４クラスということで出た話である。それから荘内を中心とした地区。東の方の、例えば鉾立小学校の辺の子が実際に距離的に毎日通うと難しいのではないかなという考えもあり、東の方に小規模だけれども、１つ中学校を、山田、東児あたりが中心となった中学校を１つ残す。そこに通う小学校というと鉾立、胸上、後閑、山田。１小１中になってしまうので、玉野のこれからの教育を考えて、何か特色ある学校づくりということを目指すのであれば、１小１中については、義務教育学校のような、クラス替えはないが１学年１クラスが縦の繋がりが持てるような特色を出して行くというのも一つの手ではないかという話が出た。

このグループでもいろんな意見があって、小規模の学校にも良さはある。いろんなメリットデメリットを考えたときになかなかまとまりきらなかったが、教育の目標とか子どもたちにどういった人間の人格の形成と、令和の教育としては、多様な人との関わりを持ちながら、社会的な変化が激しいがそういった変化にも対応できるような人材の育成というのも今の時代には求められている。そういったときには、ある程度の小規模校よりはその規模の適正な集団の中で社会性を養いながら、新しい学び、協同的な学びを、ある程度の人数で作っていくのがこれからの玉野市の目指していく教育と感じている。

委員長：　今の意見で、事務局から何かあるか。荘内と宇野を中心とした地区が１つ、名前は、統合、吸収合併のような形ではなくて、A と B を合わせて C という新しい学校を作っていくという発想で残したらどうか。その中でも多様な子どもたちがいることを踏まえた、学校内でもクラスの編成などを工夫してほしいということ。小規模校を含めて、東側の位置をどうしていくかということで少し議論が分かれた。将来的には２つにするように段階を考えていくのか、それとももっと特色を出した形で残していくのかというようなところが考えるところ。あとはスクールバスを使っていく。通学のところは共通理解でいいと思う。

委員２：　前提として、学校を新しく建てないというのはどういうことが理由なのか。

事務局：　小学校を中学校で使えないかという意見があったが、小学校と中学校では設備が違う。すぐにそれを利用するとなると難しい。田井小は、小さいので、統合して使用するのは難しいと思う。荘内中ではなくて日比中の方を利用してはどうかという意見については、キャパシティが問題にはなる。学校内に、少人数のクラスができないかということについては難しいが、検討が必要である。新しい学校が作れないのかということについては、今の段階では、何とも言えないが、将来的に全くゼロかというとそれはまだまだ検討できると思う。今の現状では難しい。

委員５：　新校舎は今は難しいと言われているが、大体何年間ぐらいは難しいというような感覚なのか。

事務局：　何年後に新しいものが建てられるかという予測は非常に難しい。将来的に建てたいという思いはあるが、これはかなりの予算がかかる。それを捻出する話はかなり難しいので、今の段階では、統廃合した段階で、他に維持管理経費が加わっていく。大規模改修を途中で実施し、長寿命化に繋げていくことで理解いただきたい。

委員長：　次は、タイミングについて検討いただきたい。段階を追っていくのか、あるいは、こういう状況になったら実施するとか、検討いただきたい。

（グループ討議）

グループ１：　（委員３）何年後とか何年度という前に生徒の人数で１００人を切ったらというのを一番ポイントとして考えた。

３校になると荘内と宇野、（八浜・山田・東児）でくくっているが、令和７年に玉中学校が１００人を切るので、玉中は宇野の方に行く。だけど、玉中も玉原小学校区の人は荘内の方が近いこともあるので、荘内に行ける地区と玉小学校区は宇野に行くような形を最初から作ってあげて、令和７年にしてみたらどうかという話があった。

日比が次に令和９年に 100 人を切るので、その時に宇野へ統合する。山田・東児は早急にした方がいいので、まず一番は山田・東児を統合する話が出た。八浜が令和 14 年に 100 人を切るので、そのときに大崎小学校区は荘内の方が近いので荘内の方に統合するのか、東児・山田で中学校１校ができるのであれば、八浜小学校区が東児・山田の方が近いのであれば、そちらにするの

か、まとまってはいないが、今の段階で出た意見である。
学校区は条件付きで選べるようにしてはどうか。例えば、玉小・玉原小が荘内中と宇野中に分かれる時に、ぐちゃぐちゃになったり、偏ったりしてしまう問題が起きてはいけないので、ある程度のくくりは作ってあげて、その中で動けるようにしてはどうかということになった。

委員長：　統合のタイミングとしては、100 人を一つの区切りにして考えるという意見であった。

グループ２：　（委員１）山田中学校区のもう待ったなしということもあって、バラバラに統合していくというよりも、できるだけ玉野全体で同時に早く行った方がいい。そのときに、いろいろな手順を踏まなければいけないそうだ。それでどうしても２年ぐらいはかかりそうだ。となると、令和８年４月が最短ではないかという意見になった。そうしたときにも、例えば中学校３校にするのであれば、そこを目指して進めていく。そこは実際に動く人が大変だと思うが、お願いするしかないというところである。準備に２年かかるということが、根底の考え方である。荘内に適正規模が１校、宇野に適正規模が１校、第１段階目は、もう１つ小規模が東に必要である。そのときに玉野市全体を同時にしてしまう。将来は東西２校の中学校になる。またその次の段階もあるだろう。最初からは新しい校舎が建てられないということが前提の考え方である。

委員長：　令和８年４月を目指して教育委員会が早急に動くという意見であった。

グループ３　（委員６）グループ３はちょっと意見が割れている。人数で線を引くのはどうなのかという意見と、もう一つの意見は、山田地区のこと、後閑地区のことを聞くと、もう今すぐにでも必要だということで、事務的にいろいろなことを考えると来年というのは難しいかもしれないが、今すぐにも統合してあげる方が子どもたちのためなのではないかと考えた。
令和 10 年を目途に、中学校は、先ほど示した３つ、それから小学校５つ。統合するなら同時にがよい。例えば、３つの小学校が１つになる場合、１、２校が統合して、後から３つ目が統合する形ではなく、統合するのであれば、同時の方がいいんじゃないのかという話が出た。私が先日ＰＴＡの会議に出たときに、どの学区でも適正規模の話題になっていて、その中で、保護者の方はすごく前向きに統廃合するにあたって、ＰＴＡ会費を残さない方がいいんじゃないか、積立金をどうしようかというような話が出ていたので、そうしたことを考えると、1 校ずつ統合していくというよりは、統合するときは一斉に同時にという方が望ましいと思った。

委員長：　早急に統合するなら同時にというのが２チームあった。各チームの意見を受けて、お互いに意見や質問などがあればお願いしたい。
今のところ３校で、早めに一気にというところ。

委員３　グループ３の意見であるが、３校になるのであれば、徐々にではなく一気に統合した方がいいという話だったが、逆の意見で、我々のグループでは山田・東児・八浜で１校になるという話の中で言うと、統廃合が今すぐそんなに必要性がないところは徐々にでいいのではないかと考えている。
統廃合は大体近いところから徐々にやっていく。この会の答申を考える上で

も、玉野市中のことを今考えているから常に皆さんの意見があちこちしている。多分多くなればなるほどそうなるのではないかと考える。個人の意見としては、1 校ずつ、こことここが統合して、そこにまたもう１校入ってという方が、子どもたちにとっても問題ないのではないかと考えている。

委員長：　山田・東児は、まず第一段階としてすぐにというところで共通認識しているが、八浜中の扱いが、３つのうちのどこと統合するかによって、段階が変わってくるのかもしれない。八浜中は今のところは必要ないのではないという意見である。令和 13 年度に単学級になって、そしてその後は、単学級が進んでしまう。令和 13 年ということを考えたら、意外とそんなに猶予がないがどうだろうか。小学校を合わせてこの東側の扱いを次回検討していきたいと思う。八浜中学校の扱いというところで、２パターンに分かれる。

委員７：　統合について、自分が経験したことを話すと、統合のときに子どもたちのいろいろな交流であったり、事務的なことであったりは、お互いに詰めていかないとできない。最低でも 2 年は必要と思う。それから段階的という意見もあったが、参考までに、統合の時に保護者にいろいろ話を聞くと、１回統合して、また何年後かに統合するのは、ストレスでしかない。それは子どもにとっても保護者にとっても同じである。やるのであれば、一気にやった方がいい。それも準備期間を置いてやるのがいいと思っている。

委員長：　事務的な部分に加えて保護者の意見、そして、当事者の生徒たちの不安。とても不安定な状態にずっと置かれているということを考えると、丁寧に準備時間を設けて、一気にという方が、子どもにとってもいいのではないかという意見であったが、いかがか。

委員３：　段階的という話と一気という話で、実際、教育委員会が実施するときに、一気にやった方がやりやすいのか。

事務局：　今の段階では、まとめきれてないが、確かに先ほど実体験から言われたところ、子どもの目線でストレスや不安を与えないという意味からすると一気にやった方がいいのではないかと思う。一気にやるとなるとそれなりの準備期間がないと、いろいろなものを準備して決めていかないといけないと思うので、それなりの期間をかけないと難しいと思っている。

委員３：　校数が増えると、準備期間も増えるということか。

事務局：　そうだ。校数が増えると準備期間をしっかり取らないといけない。皆さんに納得してもらった上でやっていくのが大前提だと思うので、そのための期間が必要だと思っている。

委員３：　わかった。

委員長：　おおよそで３校がいいのはわかったが、八浜中の位置づけがはっきりわからない。

委員８：　まだ決まってない。話し合いをして、20 年 30 年先の未来を見据えなくてはいけないという話だ。

委員長：　例えば、八浜はどこと統合するということで考えているところはあるか。

委員１：　具体的には、八浜も別れていく。

委員長：　どことどこをという感じがあるか。荘内に１校、宇野に１校、そして東に１校ということもあるが、何となくぽっかり浮かんでるのが八浜の一部である。

委員１：　八浜をまとめてどっちかにというのはなかなか難しい。荘内か宇野か東なのかはわからないが。

委員長：　そこは小学校も考えながら残るところになる。今まで出た意見、何パターンかを事務局ともう１回整理して、次のとき協議する。次は小学校の配置と規模の議論になる。その時に小規模校をどう考えていくのかとか、玉野市の特色とか、その辺りの議論も絡んでくると思う。